

新年のごあいさつ

学校法人ねむの木学園

特別支援学校ねむの木

理事長・学校長 梅津 健一

あけましておめでとうございます。

冬休みに入った直後から、学園ではインフルエンザにかかる子ども・教職員が出始め、その対応に追われる日々を送っています。全員で顔を合わせて新年のあいさつをすることができそうにありません。それでも子どもたちが見せてくれる笑顔に、私たち教職員が癒される毎日を過ごしています。

社会に目を向ければ、明るいニュースよりも暗いニュースがどうしても目についてしまう昨今、分断と争いの波は日本にもじわじわと押し寄せているようです。自分たちと異なるものを排斥しようという傾向、そして力をもって相手を屈服させることが強さであり正しさであるというムードは、我が国の指導者層の中にも見られるような気がして、不安でなりません。宮城まり子は「強さとは、勇ましい言動や力強い腕力でもなければ強力な武器でもない。すべての人、あらゆる考え方を受け入れ、許し合えるやさしさこそが本当の強さである。」と説きました。これからもねむの木学園はこの信念を貫き、子どもたちを守って行きたいと思います。そして今年こそは世界中から争いがなくなり、すべての人々が平和に過ごせるよう祈ります。

宮城まり子が旅立ち、間もなく6年が経過します。来年3月には生誕100年を迎えますが、ここ数年の学園の運営状況は、財政的にも人的にも大変厳しいものがございます。人手不足の中、教職員には厳しい労働条件を受け入れてもらわざるを得ず、子どもたちには以前のような行き届いたケアをしてあげられないことに、申し訳なさを感じます。それでも何とかして質素ながらも心豊かな生活を送ってもらえるよう、努力してまいります。

これからもねむの木学園に皆様の温かいご支援をいただけますようお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。